

動画を撮影する

動画の画質を決める

撮影前に、動画の画質を選びます。動画の画質とは、再生したときの画像のきめ細かさや滑らかさ、美しさを示す目安です。画質を高品位にすると美しく撮影できますが、撮影できる時間は短くなります。

画質 (pixels)		転送レート	フレームレート
HQ	640×480	約4.0メガビット/秒	30フレーム/秒
HQワイド	704×384	約4.0メガビット/秒	30フレーム/秒
Normal	640×480	約2.1メガビット/秒	30フレーム/秒
Normalワイド	704×384	約2.1メガビット/秒	30フレーム/秒
LP	320×240	約745キロビット/秒	15フレーム/秒

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“ 画質”を選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で希望の画質を選び、【SET】を押す

- 画質を“HQワイド”または“Normalワイド”に設定すると、液晶モニターに“**WIDE**”が表示されます。

動画の形式

撮影した動画は、MPEG-4準拠のAVI形式で記録されます。本機で撮影した動画は、パソコンにコピーして下記のソフトで再生することができます。

- WindowsではWindows Media Player
- MacintoshではQuickTime (CASIO AVI Importer componentインストール時)

動画のサイズ

1分間撮影した動画のファイルサイズは、おおよそ以下のとおりです。

画質	サイズ
HQ	約28.4MB
HQワイド	約28.4MB
Normal	約14.9MB
Normalワイド	約14.9MB
LP	約5.3MB

動画を撮影する(ムービー)

動画とともに音声も記録されます。音声はモノラルです。

1. 撮影モードにして、カメラを被写体に向ける

2. 【●】を押して撮影を開始する

- 撮影中は、“●REC”が表示されます。

3. もう一度【●】を押して撮影を終了する

【●】を押す前にメモリーがいっぱいになると、撮影は終了します。



撮影可能な残り時間

撮影時間

ベストショットを利用した動画撮影

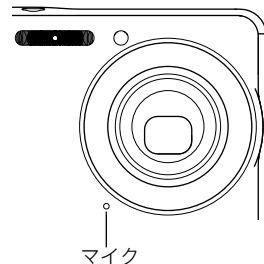
ベストショット(67ページ)を利用して、カメラが提案するシーンを選ぶだけできれいな動画を撮影できます(たとえば、ベストショットの“夜景を写します”を選んでから動画を撮影すると、夜景を明るく撮影できます)。

動画撮影時の手ブレ軽減

動画を撮影するとき、手ブレを軽減しながら撮影することができます(71ページ)。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。

動画撮影時のご注意

- フラッシュは使えません。
- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
 - 指などでマイクをふさがないでください。
 - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
 - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。
- 極端に明るい被写体を撮影しようとする、液晶モニターの画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象)が、故障ではありません。この帯は静止画には記録されませんが、動画にはそのまま記録されます。
- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、“●”と“●REC”が点滅します。このため、最大転送速度が10MB/s以上のメモリーカードの使用をおすすめします。
- 動画撮影中に【**L**】(望遠)を押すと、デジタルズームが動作します(光学ズームは動作しません)。光学ズームを使ってズーム撮影したいときは、【●】を押す前に【**L**】(望遠)を押してください。



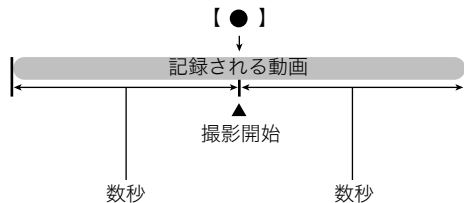
マイク

- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。
- カメラの撮影範囲外ではピントが合わず、ぼけた画像になります。
- 動画撮影時のオートフォーカスモード、マクロモードは固定焦点となります(78、79ページ)。

短時間の動画を撮影する(ショートムービー)

【●】を1回押すと、その前後の数秒間動画として記録されます。【●】を押す前と後の、何秒間を記録するかはそれぞれ独立して設定できます。


- 【●】を押す前の数秒も記録されるので、子供のちょっとしたしぐさなど、撮るのがしたくないシーンをしっかり記録できます。
- 決定的シーンの静止画がほしいときは、ショートムービーで撮影し、そこから気に入ったシーンをモーションプリント機能(115ページ)で静止画にする、という使いかたもできます。



■ ショートムービーの準備をする

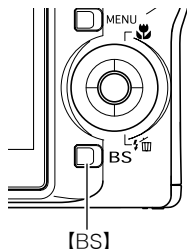
1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ショートムービー”のシーンを選び、【SET】を押す

液晶モニターに、“

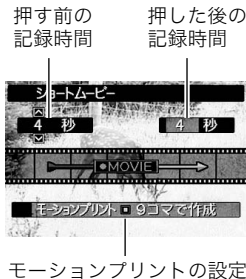
この状態で、【●】を押す前後約4秒の動画を撮影できます。

時間の設定を変更するとき、およびモーションプリントの設定をするときは、手順3に進んでください。



3. 【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で【●】を押す前に何秒間記録するかを選び、【▶】を押す



5. 【▲】【▼】で【●】を押した後に何秒間記録するかを選び、【▶】を押す

設定できる時間は、前後の合計で最短2秒、最長8秒です。たとえば、押す前の時間(手順4)を5秒にしても、押した後の時間(手順5)で3秒を超える時間を選ぶと、押す前の時間はそれに合わせて自動的に少なくなります。

6. 【▲】【▼】でモーションプリントの設定をして、【SET】を押す

9コマで作成:

【●】を押した瞬間の静止画を最も大きくレイアウトした9コマの静止画を保存します。



1コマで作成:

【●】を押した瞬間の静止画を保存します。



切:
静止画は作成しません。

■ ショートムービーを撮影する

1. カメラを被写体に向け、【●】を押す

設定してある時間分の動画が記録され、撮影は終了します。
設定した時間の前に撮影を終了したいときは、もう一度【●】を押します。

★ 重要

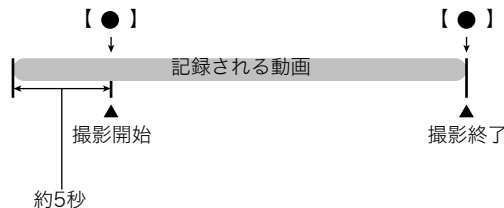
- 【●】を押す前から、動画の記録は始まっています。カメラをしっかり被写体に向けておいてください。ここだ、と思ったときに【●】を押します。【●】を押すと、押した後の撮影時間が4、3、2、1・・・とカウントダウン表示されます。

通常の撮影モードに戻るには

ショートムービーの撮影が終わっても、カメラはさらに次のショートムービーを撮影できる状態になっています。
ショートムービー撮影を終えるには、【BS】を押し、“ショートムービー”以外の設定を選んで【SET】を押してください。たとえば、普通の静止画が撮影できる状態にするには、“オート”を選んで【SET】を押します。

撮影開始前のシーンも動画に記録する (パストムービー)


パストムービーは、【●】を押して撮影開始、もう一度【●】を押して撮影終了する点は普通のムービーと同じですが、撮影を開始する約5秒前から動画が記録されます。決定的シーンの撮りのがしを防ぐことができます。

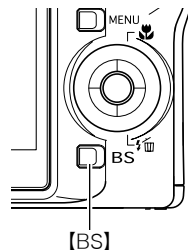


■ パストムービーの準備をする

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“パストムービー”のシーンを選び、【SET】を押す

液晶モニターに“”が表示されます。
この状態で、パストムービーの撮影ができます。



■ パストムービーを撮影する

1. カメラを被写体に向け、【●】を押して撮影を開始する
2. もう一度【●】を押して撮影を終了する
【●】を押す前にメモリーがいっぱいになると、撮影は終了します。

通常の撮影モードに戻るには

パストムービーの撮影が終わっても、カメラはさらに次のパストムービーを撮影できる状態になっています。

パストムービー撮影を終えるには、【BS】を押し、“パストムービー”以外の設定を選んで【SET】を押してください。たとえば、普通の静止画が撮影できる状態にするには、“オート”を選んで【SET】を押します。

動画撮影中に静止画を撮影する (スチル インムービー)

普通の動画(ムービー)の撮影中でも、静止画を撮影することができます。ただし、静止画を撮影した直後、動画(映像と音声)は数秒間途切れます。

1. 動画(ムービー)撮影中に、シャッターを押す

シャッターを半押ししてピント合わせをすることもできます。静止画を記録した後は、動画撮影が続きます。動画撮影を終了するには、【●】を押します。

★ 重要

- ベストショットを下記に設定しているときは、動画撮影中の静止画の撮影はできません。
 - “ショートムービー”、“パストムービー”、“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“ボイスレコード”

参考

- 動画撮影中に【▼】(⚡📷)を押して、静止画撮影のためのフラッシュ発光方法を切り替えることができます。

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

逆光で人物を撮影したら顔が黒く写ってしまった、またはサッカーの試合を撮影したら選手の姿がブレて写ったなど、被写体や撮影条件によっては望みどおりの写真が撮れないことがあります。そのようなときは、本機に収録している撮影シーンから、望みのイメージに合ったシーンを選んでみてください。操作は【BS】を押して適切なシーンを選ぶだけです。

■ 撮影シーンの例

- “人物を写します”



- “風景を写します”



- “夜景を写します”



- “人物と夜景を写します”



■ シーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

ベストショットモードになり、15個のシーナー一覧が表示されます。

- 赤枠で囲まれた画像が現在選択されているシーンです。
- 初期状態では“” (オート) が選択されています。



2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ

- 【▲】【▼】を押していくと画面が切り替わり、別のシーナー一覧が表示されます。
- ズームボタンを押すと、選んだシーンの説明画面が表示されます。この画面で、どんな設定になるかを確認できます。ズームボタンを押すと一覧に戻ります。
- “オート”での撮影に戻るには、シーン番号1の“” (オート)を選んでください。シーンの一覧またはシーンの説明画面が表示されている状態で【MENU】を押すと、赤枠が“” (オート)へジャンプします。

3. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

- 別のシーンに切り替えるまで、同じシーンの設定で撮影されます。
- 別のシーンを選び直すには、手順1からの操作を繰り返します。

4. 静止画を撮影するときはシャッターを、動画を撮影するときは【●】を押す

シーンごとの制約

- “名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”
動画撮影には使えません。
- “ショートムービー”、“パストムービー”
静止画撮影には使えません。
- “ボイスレコード”
静止画撮影、動画撮影には使えません。
- “夜景を写します”、“花火を写します”ではシャッター速度が遅くなります。このシーンでは画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理をしています。このため、撮影が終わるまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作をしないでください。また、手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。

重要

- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容を変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。変更した内容を何度も使いたいときは、カスタム登録してください(69ページ)。

シーンの説明画面での操作

シーン一覧では、選択したシーンの名前は表示されますが、その設定内容は分かりません。

選んだシーンの設定内容を見たいときは、シーン一覧でズームボタンを押します。シーンの説明画面が表示されます。



説明画面では、以下の操作ができます。

- 15個表示に戻る：ズームボタンを押す
- 次の(前の)シーンを表示する：【◀】【▶】を押す
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る：【SET】を押す

参考

- シーンの説明画面で【SET】を押して撮影できる状態に戻った場合、【BS】を押すと、選んだシーンの説明画面が表示されます。

■ 自分好みの設定をベストショットに登録する(カスタム登録)

うまく撮れた静止画や動画の設定内容をベストショットモードに登録して、同じ設定で撮影することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“BEST SHOT”(新規登録)のシーンを選び、【SET】を押す
3. 【◀】【▶】で登録したい静止画または動画を選ぶ
4. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す
登録したシーンには、“マイベストショット”という名前が付きます。

★ 重要


- 内蔵メモリーをフォーマット(134ページ)すると、カスタム登録したシーンファイルは消えてしまいます。

参考

- 静止画を登録すると静止画専用のシーンに、動画を登録すると動画専用のシーンになります。それぞれ静止画を撮るとき、動画を撮るときにのみ有効となります。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- 登録したシーン番号は、登録した順に、静止画の場合はSU1、SU2・・・、動画の場合はMU1、MU2・・・となります。
- 静止画で登録される設定内容は下記の通りです。
フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュモード、ISO感度、測光方式、フラッシュ光量、フラッシュアシスト、フィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
- 動画で登録される設定内容は下記の通りです。
フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
- あらかじめカメラに収録されているシーン以外に、最大999件まで登録できます。
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダに保存されます(173ページ)。

マイベストショットを削除する

自分で登録(カスタム登録)したマイベストショットは以下の手順で削除することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. ズームボタンを押して、説明画面を表示させる
3. 【◀】【▶】で削除したいマイベストショットを選ぶ
4. 【▼】()を押す
5. 【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押す
選択したマイベストショットが削除され、次のシーン(マイベストショットまたは新規登録)が表示されます。
6. 【◀】【▶】で別のシーンを選び、【SET】を押す
 - 撮影できる状態に戻ります。

手ブレや被写体ブレを軽減する

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。ブレ軽減の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。

次のどちらかの操作でブレ軽減の機能を選んでください。

■ ベストショットから選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ブレ軽減”のシーンを選び、【SET】を押す


次に別のシーンを選ぶまで“ブレ軽減”のシーン設定で静止画撮影できます。

■ メニュー画面から選ぶ

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“ブレ軽減”と選び、【▶】を押す


3. 【▲】【▼】で“オート”を選び、【SET】を押す

- ブレ軽減撮影に設定すると、液晶モニターに“”が表示されます。
ブレ軽減の機能を使わないときは、ここで“切”を選びます。

参考

- 操作パネル(37ページ)を使用して、簡単にブレ軽減の設定をすることもできます。

重要

- ISO感度を「オート」にしていないと、ブレ軽減の機能が動きません(87ページ)。
- ブレ軽減で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- 動画を撮影するときも、手ブレを軽減しながら撮影することができます。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません(61ページ)。
- シャッター速度が遅くなる撮影をすると、手ブレによるブレを軽減できない場合があります。その場合は、三脚を使用してください。
- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、ブレ軽減アイコン“”は表示されていますが、ブレ軽減機能は動きません。
- 撮影時の明るさに応じて、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行う場合があります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなります。

フラッシュなしで明るく撮影する

暗い場所で撮影するとき、カメラの感度を上げることにより、フラッシュを使わなくても画像が暗くなるのを防ぐことができます。



通常の撮影
(フラッシュ発光時)



感度を上げた撮影

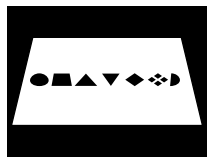
1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“高感度”のシーンを選び、【SET】を押す
3. シャッターを押して撮影する
次に別のシーンを選ぶまで“高感度”のシーン設定で撮影できます。

重要

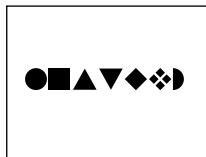
- “高感度”のシーンで撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感がやや劣る場合があります。
- 極端に暗い環境では、思ったように明るく撮影できない場合があります。
- シャッター速度が遅くなる撮影をする場合、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。
- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、高感度撮影機能は動きません。
- 撮影時の明るさに応じて、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行う場合があります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなります。

名刺や書類などを撮影する(ビジネスショット)

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットのシーンを選べば、斜めから撮影した画像を正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。



補正処理前



補正処理後

ベストショットに2つのビジネスショットのシーンが用意されています。

- “名刺や書類を写します”
- “ホワイトボードなどを写します”



■ ビジネスショットのシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“名刺や書類を写します”または“ホワイトボードを写します”のシーンを選び、【SET】を押す
次に別のシーンを選ぶまでビジネスショットでの撮影ができます。

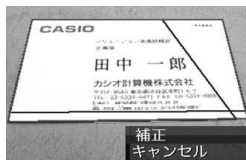
■ ビジネスショットで撮影する

1. ビジネスショットのシーンを選んだ後、シャッターを押す

補正確認画面が表示されず。

赤い枠内が補正される領域です。黒い枠が表示される場合、黒い枠は別の補正領域候補を示しています。別の補正領域候補が表示されない場合は手順3に進んでください。

- 補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、「この画像は補正できませんでした」というメッセージが表示されます。その後、補正されずに画像が保存されます。



2. [◀][▶]で補正領域を選ぶ

3. [▲][▼]で“補正”を選び、[SET]を押す

補正された画像が保存されます。

- 補正せずに保存するときは、“キャンセル”を選びます。

重要

- 被写体が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。被写体が液晶モニターからはみ出すと補正できません。
- 被写体と背景が同色の場合、補正できません。被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。
- ビジネスショットで撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても2M (1600×1200 pixels) の画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が2M (1600×1200 pixels) よりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。

古く色あせた写真を蘇らせる(よみがえりショット)

古く色あせた写真を撮影し、あせた色を補正することにより、古い写真を最新のデジタル写真として蘇らせることができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する前に

- 写真が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。
- 写真と背景の境界がはっきりするような構図で、できるだけ画面いっぱいに撮影してください。
- 写真表面に光の反射が写り込まないように撮影してください。
- 縦向きで撮影された写真は、必ず写真が横向き(横長の状態)になるような構図で撮影してください。

参考

- 写真の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」(長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態)が生じます。本機は写真の輪郭を検出し、画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

■ よみがえりショットのシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして[BS]を押す
2. [▲][▼][◀][▶]で“古い写真を写します”のシーンを選び、[SET]を押す
次に別のシーンを選ぶまで“古い写真を写します”のシーン設定で撮影ができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する

1. シャッターを押して、写真を撮影する
 - 写真の輪郭確認画面を表示し、続けて撮影した元画像を保存します。ただし、写真の輪郭が検出できない場合は輪郭確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます(197ページ)。
2. [◀][▶]で輪郭候補を選ぶ



3. [▲][▼]で“決定”を選び、 【SET】を押す

画像の一部を切り抜く操作（トリミング）に入り、液晶モニターに画像を切り抜くための枠が表示されます。

- 補正せずに保存するとき
は、“キャンセル”を選びます。



4. ズームボタンを押して、枠を拡大／縮小する

5. [▲][▼][◀][▶]で、切り抜きたい部分に枠を移動し、 【SET】を押す

あせた色を自動的に補正し、画像を保存します。

- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真よりも小さい枠で画像を切り抜いてください。
- 【MENU】を押すと切り抜きを中止し、撮影した元画像を保存します。

重要

- よみがえりショット機能で撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- 下記の場合は、撮影した写真の認識ができません。
 - 撮影した写真が液晶モニターからはみ出した場合
 - 写真と背景が同色の場合
- よみがえりショットでは、大きな撮影サイズに設定しても2M(1600×1200 pixels)の画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が2M(1600×1200 pixels)よりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。
- 写真の退色度合いにより、補正の効果が表れない場合があります。

よりよい撮影のための設定

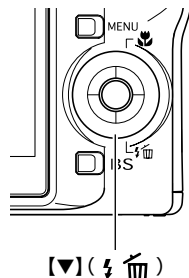
ピントの合わせかたを変える

ピント合わせの方法には、以下の5種類があります。これらをフォーカスモードといいます。最初はオートフォーカスモードが選択されています。

フォーカスモード	説明	ピントが合う距離						
AF オートフォーカス	シャッター半押しで自動的にピントが合います。	自動調整 (約40cm~∞(無限遠))						
M/A マクロ(接写)	オートフォーカスより近い距離に自動的にピントが合いません。近くのを撮影するときに使用します。	自動調整 (15cm~50cm) • 最短距離は光学ズームの位置で変わります。						
PF パンフォーカス	比較的広い範囲にピントが合うように固定されます。オートフォーカスが難しい状況に使用します。	距離固定 • ピントの合う範囲は光学ズームの位置で変わります。						
∞ 無限遠	ピントは無限遠に固定されます。景色などの遠景の撮影に使用します。	無限遠						
MF マニュアルフォーカス	手でピントを合わせることができます。	• ピントを合わせることができる範囲は光学ズームの倍率で変わります。 <table border="1"><thead><tr><th>光学ズーム倍率</th><th>範囲</th></tr></thead><tbody><tr><td>1倍</td><td>約15cm~∞</td></tr><tr><td>3倍</td><td>約40cm~∞</td></tr></tbody></table>	光学ズーム倍率	範囲	1倍	約15cm~∞	3倍	約40cm~∞
光学ズーム倍率	範囲							
1倍	約15cm~∞							
3倍	約40cm~∞							

フォーカスモードは次の手順で変えます。

1. 撮影モードにする
2. 【▼】(⚡📷)を2回押す
3. 【◀】【▶】でフォーカスモードを選び、【SET】を押す
 - 各フォーカスモードでの撮影方法は次の項以降で説明します。



フォーカスモードのアイコン

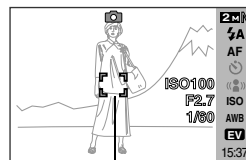


参考

- 画面のレイアウトが“ノーマル” (38ページ) のときは、【▲】(📷)を押すことでフォーカスモードを選ぶことができます。

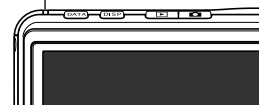
自動でピントを合わせる(オートフォーカス)

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームの中に入れて、シャッターを半押しする
ピント合わせが行われます。
ピントが合ったかどうかは動作確認用ランプとフォーカスフレームの点灯のしかたによって分かります。



フォーカスフレーム

動作確認用ランプ



状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせできない	緑点滅	赤点灯

2. シャッターを全押しして撮影する

重要

- 動画撮影時のオートフォーカスモード、マクロモードは固定焦点となります。

参考

- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- オートフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例: AF ○○ cm - ∞
※○○には数字が入ります。

近くを撮影する(マクロ)

1. シャッターを半押ししてピントを合わせる
ピントの合わせかたはオートフォーカスモードと同じです。
2. シャッターを全押しして撮影する

重要

- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。
- 動画撮影時のオートフォーカスモード、マクロモードは固定焦点となります。

参考

- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- マクロ(接写)撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例: ○○ cm - ○○ cm
※○○には数字が入ります。

オートフォーカス/マクロモードでの撮影テクニック

オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える

オートフォーカス(AF)の測定範囲を変更することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“AFエリア”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

【●】 スポット:

中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(81ページ)を活用した撮影に便利です。

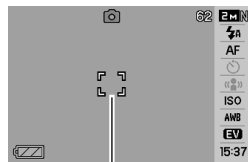
【田】 マルチ:

シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、カメラが自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合ったと判断された複数の点が同時に緑色で点灯表示します。

参考

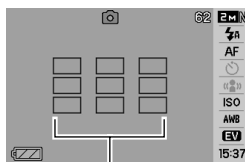
- “【田】 マルチ”に設定すると、9つのフォーカスフレームが表示されます。シャッターを半押しすると、ピントが合った場所のフォーカスフレームが緑色で表示されます。

“【●】 スポット”の場合



フォーカスフレーム

“【田】 マルチ”の場合



フォーカスフレーム

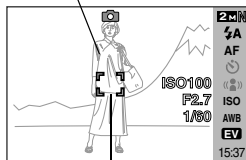
フォーカスロック

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックというテクニックを使います。

- AFエリアは、“**[C]** スポット”にしておきます。

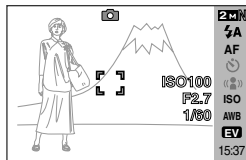
1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

ピントを合わせたい被写体



フォーカスフレーム

2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図を決める



3. シャッターを全押しして撮影する

参考

- フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

クイックシャッター

クイックシャッター機能を使うと、シャッター半押しによるオートフォーカスが完了する前に、シャッターを全押しすることで、オートフォーカスを作動せずに撮影することができます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“クイックシャッター”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入:クイックシャッターが機能します。
切:クイックシャッターが機能しません。
4. シャッターを一気に押し込んで撮影する
シャッター半押しを省略した場合、オートフォーカスを作動せずにクイックシャッターで撮影されます。

ピントを固定して撮影する(パンフォーカス)

パンフォーカスモードでは、比較的広い範囲にピントが合うように調整されるので、オートフォーカス動作は行われません。

1. シャッターを全押しして撮影する

遠くを撮影する(無限遠)

∞(無限遠)にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。車や列車の窓越しなど、オートフォーカスが難しいところからの景色の撮影にも活用できます。

1. シャッターを押して撮影する

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

被写体を拡大表示させた状態で、手動でピント調整ができます。走ってくる列車などを撮影するときに便利です。あらかじめ列車の通過点の目標物(電柱など)に手動で合わせておくことで、ピント合わせの操作をせずに素早く撮影ができます。

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

2. 液晶モニターを見ながら【◀】【▶】でピントを合わせる

このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。

【◀】:近い側にピントを合わせる

【▶】:遠い側にピントを合わせる

- 約2秒間操作をしないと、手順1の画面に戻ります。

3. シャッターを押して撮影する



ピント合わせの黄色枠

参考

- マニユアルフォーカス撮影時に光学ズーム(49ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。

例:MF ○○ cm - ∞

※○○には数字が入ります。

重要

- マニユアルフォーカスを選択しているとき、キーカスタマイズ機能で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(92ページ)。

明るさを補正する(EVシフト)

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正值 : -2.0EV ~ +2.0EV

補正単位 : 1/3EV

- 撮影モードにして【MENU】を押す
- “画質設定”タブ→“EVシフト”と選び、【SET】を押す

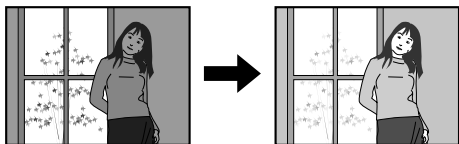


露出補正值

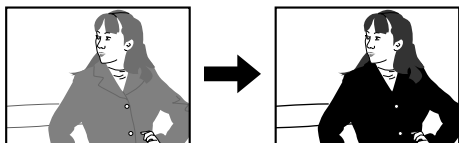
3. 【▲】【▼】で露出補正値を選ぶ

【▲】：+方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。

※ベストショットの“逆光”も便利です。



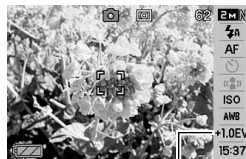
【▼】：-方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。



露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4. 【SET】を押す

露出値が補正されます。
次に露出補正を変えるまで、
設定した露出補正値で撮影
できます。



露出補正値

重要

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

参考

- 操作パネル(37ページ)を使用して、露出補正することもできます。
- 測光方式をマルチパターン測光(画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます)に設定しているときに露出補正を行うと、測光方式が自動的に中央重点測光(中央部を重点的に測光します)に切り替わります。露出補正値を“0.0”に戻すとマルチパターン測光に戻ります(88ページ)。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで露出値を補正することができます(92ページ)。ヒストグラム表示(90ページ)を確認しながらの撮影に便利です。

色合いを変える(ホワイトバランス)

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写ることがあります。また白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写ることがあります。このような現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整する機能がホワイトバランスです。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押す



3. 【▲】【▼】で撮影条件を選び、【SET】を押す

オート : 自動的にホワイトバランスを調整

☀ 太陽光 : 晴天時の野外での撮影用

☁ 曇天 : 薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用

🌳 日陰 : 晴天時の、ビルや木の陰などの撮影用

☀N 昼白色 : 白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用

☀D 昼光色 : 昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用

💡 電球 : 電球の雰囲気を消した撮影用

マニュアル : その場の光源に合わせて手動で設定します。
詳しくは「マニュアルホワイトバランスを設定する」(86ページ)を参照してください。

参考

- 操作パネル(37ページ)を使用して、ホワイトバランスを変更することもできます。
- ホワイトバランスの“オート”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。このような場合は、太陽光、曇天など撮影条件を指定してください。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでホワイトバランスを変更することができます(92ページ)。
- キーカスタマイズ機能で“オート”を選ぶときは、“AWB” (オートWB)を選んでください。

■ マニュアルホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの“オート”や太陽光、曇天など光源を指定する固定モードは、複数の光源下など難しい環境では調整できる範囲に限界があり、自然な色合いで撮れないことがあります。マニュアルホワイトバランスを設定すれば、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスを設定するために、白い紙を用意してください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

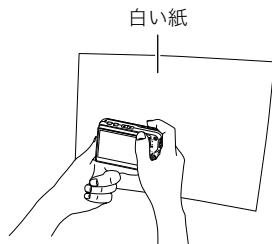
2. “画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“マニュアル”を選ぶ

液晶モニターには、前回設定したバランスで被写体が表示されます。この設定で使う場合は、手順5に進んでください。

4. 撮影場所で画面全体に 白い紙を写した状態で シャッターを押す

“完了”と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。



5. 【SET】を押す

ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。

参考

- 一度設定したマニュアルホワイトバランスは、新たにマニュアルホワイトバランスを設定し直さない限り、電源を切っても保持されたままとなります。

ISO感度を変える

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。数値が大きいほど感度が高くなり、暗い場所での撮影に強くなります。シャッター速度を速くしたいときにもISO感度を高くします。同じ撮影条件下ではISO感度を高くするとシャッター速度は早くなりますが、画像は多少ざらついた感じ(ノイズが増加した画像)になりますので、きれいに撮りたいときはなるべくISO感度を低くしてください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“ISO感度”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

オート : 撮影条件により自動調整します。

ISO 50 : 感度が低い

ISO 100

ISO 200

ISO 400 : 感度が高い



参考

- 操作パネル(37ページ)を使用して、ISO感度を変更することもできます。

重要

- ISO感度を上げてフラッシュ撮影すると、近くの被写体の明るさが適正にならない場合があります。
- 動画撮影では、ISO感度がどこに設定されていても、常に“オート”に設定されます。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでISO感度を変更することができます(92ページ)。

光の測りかたを変える(測光方式)

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“測光方式”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す



マルチ(マルチパターン):

画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。測光結果の明暗パターンによって撮影環境をカメラが自動的に判断し、露出を決定します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出が得られます。



中央重点:

中央部を重点的に測光します。カメラ任せではなく、自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。



スポット:

センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。



重要

- “マルチ”設定時にEVシフト(83ページ)を行うと、測光方式が自動的に“中央重点”に切り替わります。EVシフトを“0.0”に戻すと、元の測光方式に戻ります。
- “マルチ”設定時は、撮影モードの情報表示に戻ったときにアイコンが表示されません(184ページ)。

参考

- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで測光方式を変更することができます(92ページ)。

全体の色調を変える(フィルター)

フィルター機能を使用して、撮影時の画像の色彩効果を変更することができます。色彩効果用のレンズフィルターを装着して撮影したような画像になります。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“フィルター”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
設定できる内容: 切/白黒/セピア/赤/緑/青/黄/
ピンク/紫

鮮明さを変える(シャープネス)

撮影される画像の輪郭の鮮鋭度を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“シャープネス”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(もっとも鮮鋭度が高い)から-2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“彩度”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から-2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える(コントラスト)

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“コントラスト”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(明暗がもっともクッキリする)から-2(明暗がもっとも平坦になる)までの5段階から選べます。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

撮影時に画像の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“タイムスタンプ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

例)2006年12月24日 午後1時25分

日付 :日付(2006/12/24)が写し込まれます。

日付+時刻 :日付/時刻(2006/12/24 1:25pm)が写し込まれます。

切 :日付/時刻は写し込まれません。

重要

- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消すことはできません。
- 年/月/日の並び順は“表示スタイル”の設定(131ページ)にしたがって写し込まれます。
- 時刻の表示は“日時”の設定(10、131ページ)にしたがって写し込まれます。
- タイムスタンプを設定して撮影すると、デジタルズームは働きません。
- 下記の撮影では、タイムスタンプは無効となります。
 - ベストショット撮影の一部(“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”)
 - ズーム連写

露出を確認する(ヒストグラム)

液晶モニター上にヒストグラムを表示させることで、露出(光の量や明るさ)をチェックしながら撮影することができます。再生モードでは撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。



ヒストグラム

1. 撮影モードまたは再生モードにする
撮影モード、再生モードのそれぞれにヒストグラムの表示の有無が設定できます。
2. 【DISP】を押す
3. “情報”→“ヒストグラム付”と選び、【SET】を押す

参考

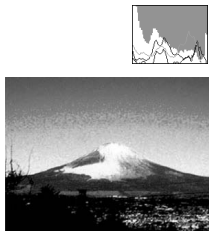
- キーカスタマイズ機能で“EVシフト”の切り替えを【◀】【▶】に割り当てると(92ページ)、ヒストグラムを確認しながら【◀】【▶】で露出を補正して撮影することができます。

■ ヒストグラムの見かた

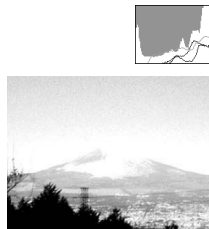
ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムを見ると、補正するために十分な画像のディテールが画像のシャドウ(左側)、中間調(中央部分)、ハイライト(右側)に含まれているかどうかを確認することができます。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、露出補正(EVシフト)を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらにR(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されますので、色ごとに「赤成分がオーバー」「青成分がアンダー」のように各色の分布状況も直感的に把握することができます。

典型的なヒストグラムの例

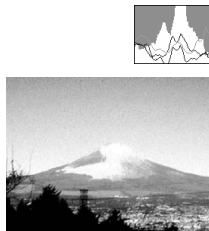
ヒストグラムが左の方に寄っている場合は、暗いピクセルが多いことを示しています。全体的に暗い画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎてしまうと、黒つぶれを起こしている可能性もあります。



ヒストグラムが右の方に寄っている場合は、明るいピクセルが多いことを示しています。全体的に明るい画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎてしまうと、白飛びを起こしている可能性もあります。



ヒストグラムが中央に寄っている場合、明るいピクセルから暗いピクセルまで適度に分布していることを示しています。全体的に適度な明るさの画像はこのようなヒストグラムになります。



重要

- 前記のヒストグラムはあくまでも例であり、被写体によってはヒストグラムの形が例のようにならない場合もあります。
- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。
- RGB(色成分)ヒストグラムは、静止画にのみ表示されます。

撮影を補助するいろいろな機能

撮影モードでは、次のことを行うことができます。

- **[◀][▶]**キーに機能を割り当てる
- 撮影時に構図の目安となる基準線(グリッド)を表示する
- 撮影した画像を確認する
- 設定を記憶させる
- 各種設定をリセットする

[◀][▶]キーに機能を割り当てる (キーカスタマイズ)

[◀][▶]キーに以下の5つのうちどれか1つの機能を割り当てることができます。割り当てた機能は撮影モード時(静止画および動画)にいつでも使えるので便利です。機能の説明は参照ページをご覧ください。

- 測光方式: 光の測りかたを変える(88ページ)
- EVシフト: 明るさを補正する(83ページ)
- ホワイトバランス: 色合いを変える(85ページ)
- ISO感度: ISO感度を変える(87ページ)
- セルフタイマー: セルフタイマーの時間を設定する(56ページ)
- 切: **[◀][▶]**キーに機能を割り当てない

1. 撮影モードにして**[MENU]**を押す
2. “撮影設定”タブ→“左右キー設定”と選び、**[▶]**を押す

3. **【▲】【▼】**で割り当てる機能を選び、**【SET】**を押す
【◀】【▶】を押すだけで、割り当てた機能を使うことができるようになります。

撮影時に構図の目安となる基準線(グリッド)を表示する

撮影時、液晶モニターに方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つのに便利です。



1. 撮影モードにして**【MENU】**を押す
2. “撮影設定”タブ→“グリッド表示”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】【▼】**で設定内容を選び、**【SET】**を押す
入:グリッドを表示します。
切:グリッドを表示しません。

撮影した画像を確認する(撮影レビュー)

お買い上げいただいたときは、撮影直後の画像を液晶モニターで確認することができます。この機能を使えなくすることもできます。

1. 撮影モードにして**【MENU】**を押す
2. “撮影設定”タブ→“撮影レビュー”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】【▼】**で設定項目を選び、**【SET】**を押す
入:撮影した画像が約1秒間表示されます。
切:撮影した画像は表示されません。

画面上のアイコンの意味を確認する (アイコンガイド)





撮影モード時に液晶モニター上でアイコンの意味を確認しながら操作することができます(186ページ)。

- アイコンの意味を確認できる機能は、次の通りです。
 - 撮影モード、フォーカス方式、測光方式、フラッシュ、ホワイトバランス、セルフタイマー、EVシフト

ただし、測光方式、ホワイトバランス、セルフタイマー、EVシフトのアイコンの意味は、キーカスタマイズ機能(92ページ)を“測光方式”、“ホワイトバランス”、“セルフタイマー”、“EVシフト”に設定したときにのみ表示されます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“アイコンガイド”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入: 各種撮影機能を切り替えたとき、切り替えた機能を示すアイコンの近くに、アイコンの意味が表示されます。
切: アイコンの意味を表示しません。

重要

- アイコンガイドを“切”に設定すると、下記のアイコンも表示されません。
 - フラッシュモードの“A” (52ページ)
 - フォーカスモードの“AF” (77ページ)
 - ホワイトバランスの“AWB” (85ページ)
 - 測光方式の“” (88ページ)

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源を入れるたびに毎回設定をし直す手間がはぶけます。モードメモリで設定できる機能は、操作4の表の機能です。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“モードメモリ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定したい機能を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入: 電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。
切: 電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	入	切
ベストショット※1	最後の状態	ベストショット状態を解除
フラッシュ		オート
フォーカス方式		オート
ホワイトバランス		オート
ISO感度		オート
AFエリア		スポット
測光方式		マルチ
セルフタイマー		切
フラッシュ光量		0
デジタルズーム		入
MF位置		MF(マニュアルフォーカス)に切り替える前の位置
ズーム位置※2		ワイド端

※1 “入”の場合は前回の選択シーンとなり、“切”の場合は通常の静止画(オート)になります。

※2 ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。

重要

- モードメモリの“ベストショット”の設定を“入”にした場合に電源をオン/オフすると、“ベストショット”以外のモードメモリの設定が入/切のどちらに設定されていても、撮影設定はベストショットの各シーンの初期設定値となります。ただし、“ズーム位置”だけは記録されています。

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値(ご購入直後の設定)に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」(186ページ)をご覧ください。

1. **【MENU】**を押す
2. “設定”タブ→“リセット”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】【▼】**で“リセット”を選び、**【SET】**を押す
 - リセットしない場合は“キャンセル”を選びます。

重要

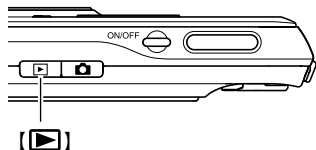
- 下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません(187ページ)。
 - ホームタイムの詳細設定
 - ワールドタイムの詳細設定
 - 日時設定
 - 表示スタイル
 - Language
 - ビデオ出力

静止画や動画を再生する

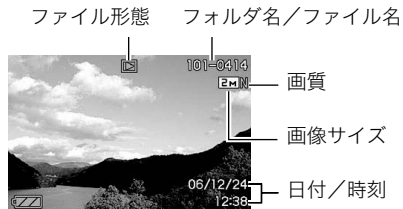
静止画を見る

撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

1. 【▶】を押して、再生モードにする



- 記録されている静止画の中の1つが液晶モニターいっぱいに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(185ページ)。



- ファイル形態:通常の静止画のときは「▶」

- 静止画以外のもの(動画や、音声だけの記録)があるときは、ファイル形態がそれに対応したアイコンに変わります。
 - ▶ :動画の再生→97ページ
 - ▶ :音声付き静止画の再生→97ページ
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(39ページ)。

2. 【◀】【▶】で静止画を切り替える

【▶】を押すと次の静止画に、【◀】を押すと前の静止画に切り替わります。




参考

- 【◀】【▶】を押し続けると、早送りができます。
- 初めに表示される静止画は簡易画像のため粗く見えますが、すぐに精細な画像になります。ただし、他のデジタルカメラからコピーした画像はこの限りではありません。


撮影モードに切り替えるには

【📷】を押します。

音声付き静止画の音声を聞く

音声付き静止画(ファイル形態は“”)の音声を、内蔵スピーカーで聞くことができます。

1. 再生モードにして、**[◀][▶]**で音声付き静止画を表示させる

ファイル形態のアイコンが“”になります。このアイコンで、音声付き静止画であることを確認してください。



2. **[SET]**を押す

音声がスピーカーから再生されます。

音声の再生中にできること

再生中に、以下の操作ができます。

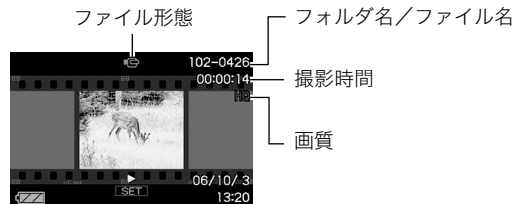
- 早送り／早戻しする：**[◀][▶]**を押し続ける
- 再生と一時停止を切り替える：**[SET]**を押す
- 音量を調節する：**[▲][▼]**を押す
- 表示内容を切り替える：**[DISP]**を押す
- 再生をやめる：**[MENU]**を押す

音量調節は、再生または一時停止中にだけできます。

動画を見る

撮影した動画を、液晶モニターで再生することができます。

1. 再生モードにして、**[◀][▶]**で再生したい動画を表示させる
ファイル形態のアイコンが“”になります。このアイコンで、動画であることを確認してください(185ページ)。



映画のフィルムのようなふち取りが、動画であることを示しています。


2. **[SET]**を押して再生を始める

- 最後まで再生されると、手順1の画面に戻ります。

撮影モードに切り替えるには

[📷]を押します。

動画の再生中にできること


早送り／早戻しする	【◀】【▶】を押す • 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。
早送り／早戻しから通常の再生に戻る	【SET】を押す
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】を押す • 押し続けると、連続してコマ送ります。
音量を調節する	【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示をオン／オフする	【DISP】を押す
拡大する	ズームボタンの【  】(Q)側を押す • 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。 • 動画は4.5倍まで拡大できます。
再生をやめる	【MENU】を押す

重要


- このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。

手ブレを補正しながら動画を再生する

撮影時の手ブレを補正しながら動画を再生することができません。カメラとテレビをつないだときなどに、手ブレを補正した状態で観賞できるので便利です。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で手ブレを補正したい動画を表示させる
2. 【●】を押して、手ブレ補正を“入”に設定する
 - 【●】を押すごとに、手ブレ補正の“入”／“切”が切り替わります。
 - 手ブレ補正が“入”に設定されると、液晶モニターに手ブレ補正アイコンが表示されます。
3. 【SET】を押して再生を始める

参考



- 動画再生中／一時停止中も【●】を押すことで、手ブレ補正の“入”／“切”を切り替えることができます。
- 次のように操作しても、手ブレ補正の“入”／“切”を切り替えることができます。
 - ① 動画再生中に【MENU】を押す
 - ② “再生機能”タブ→ “手ブレ補正”と選び、【▶】を押す
 - ③ 【▲】【▼】で“入”を選び【SET】を押す
- 手ブレ補正を“入”に設定すると、液晶モニターに表示される再生画面の表示範囲が若干狭まります。

自動的にページ送りして楽しむ (スライドショー)

撮影、記録したものを自動的に次々と再生させることができます(スライドショー)。

いろいろな見かたを設定することができます。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“スライドショー”と選び、【▶】を押す
3. スライドショーの見かたを設定する
【▲】【▼】で設定を変更したい項目を選び、下の表を参照して設定してください。

表示画像 (スライドショーで再生させるもの)	<ul style="list-style-type: none">● 全画像: メモリー内のすべての静止画、動画、および音声のみの記録●  のみ: 静止画、音声付き静止画のみ●  のみ: 動画のみ● 1枚画像: 好きな画像ひとつのみ (【◀】【▶】で表示させる画像を選びます。)● お気に入り: お気に入りフォルダ (123ページ)内の静止画
時間 (スライドショー開始から終了までの時間)	1~5分、10分、15分、30分、60分のいずれかを【◀】【▶】で選びます。

間隔 (切り替わりの間隔)	1~30秒、または“最速”を【◀】【▶】で選びます。 <ul style="list-style-type: none">- 1~30秒を選んだときは、動画や音声付き静止画、音声のみの記録は、選んだ間隔にかかわらず最初から最後まで再生されます。- “最速”を選ぶと、動画は最初の1コマだけ表示されます。音声のみの記録は再生されません。
エフェクト (特殊効果)	【▲】【▼】で希望のエフェクトを選びます。 <ul style="list-style-type: none">● パターン1~4: あらかじめ設定された特殊効果をまじえながら切り替え● ランダム: パターン1~4の特殊効果を順不同に切り替えて表示● 切: エフェクト表示しない<ul style="list-style-type: none">- “表示画像”を“お気に入り”にしたとき、“間隔”を“最速”“1秒”または“2秒”にしたときは、エフェクトは無効になります。

4. スライドショーを開始する


【▲】【▼】で“開始”を選んで【SET】を押します。

設定した時間が経過するまでスライドショーが続きます。

- 再生中に【◀】【▶】を押すと画像を送ることができます。
- 音量を調節するには、再生中に【▲】【▼】を押します。

スライドショーを中断するには

【SET】を押します。再生モードに戻ります。

- 【MENU】を押すと、中断してメニューに戻ります。
- 【】を押すと、中断して撮影モードに切り替わります。

重要

- 画面の切り替え中ではボタン操作が効かなくなります。画面が静止しているときにボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合は、しばらくボタンを押し続けてください。

参考

- “表示画像”を“1枚画像”にしたときに動画を選ぶと、動画は設定された時間内で繰り返し再生します。
- パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、切り替わる間隔が設定した間隔より長くなる場合があります。

■ USBクレードルを使ってスライドショーを楽しむ (フォトスタンド)

カメラをUSBクレードルにセットした状態でスライドショー再生をすることができます。電池の消耗を気にせずに長時間のスライドショーを楽しむことができます。

- あらかじめスライドショーの設定をしておいてください (99ページ)。
- USBクレードルは付属のACアダプターを使ってコンセントにつないでおいてください。

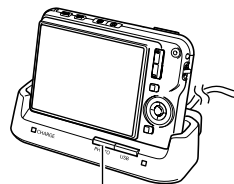
1. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットする

2. スライドショーを開始する

USBクレードルの【PHOTO】を押します。

設定した時間が経過するまでスライドショーが続きます。設定した時間が経過すると、自動的にカメラの電源が切れます。

- 再生中に【MENU】を押してスライドショーの設定を変更できます。設定変更後、もう一度【MENU】を押すとスライドショーが再開します。
- 音量を調節するには、再生中に【▼】を押し、液晶モニターの左に音量表示が表れたら【▲】【▼】を押します。



【PHOTO】

スライドショーを中断するには

USBクレードルの【PHOTO】を押します。カメラの電源が切れます。

重要

- スライドショー中は電池は充電されません。電池を充電する場合は、スライドショーを終了してください。
- スライドショー中にカメラをUSBクレードルから取りはずさないでください。データが破壊する可能性があります。

参考

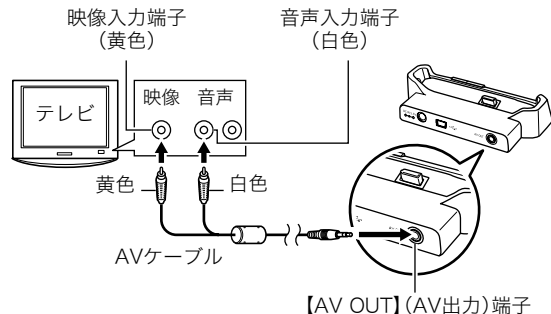
- テレビにつないでスライドショーを見ることができます。ビデオにつなげば、画像をビデオに録画することもできます(101ページ)。

テレビで画像を見る

カメラに記録してある静止画や動画を、テレビの画面で見ることができます。

USBクレードルと、付属のAVケーブルを使います。

1. USBクレードルとテレビをつなぐ




2. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットする

3. テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替える

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、USBクレードルをつないだ映像入力を選んでください。

4. を押して、カメラの電源を入れる

【ON/OFF】やを押して、電源を入れることはできません。

カメラが再生モードになり、テレビの画面に画像が表示されます。(液晶モニターには何も表示されません。)



5. 以後、カメラで再生の操作を行う

- USBクレードルの【PHOTO】を押して、スライドショーを開始することもできます(100ページ)。


カメラの電源を切るには

カメラの【ON/OFF】またはUSBクレードルの【USB】を押すと、カメラの電源が切れます。

重要

- テレビに画像を映すとき、カメラの (撮影) /  (再生)の動作を必ず“パワーオン”または“パワーオン／オフ”に設定しておいてください(133ページ)。
- 液晶モニターに表示されるアイコンなどは、そのままテレビ画面に表示されます。
【DISP】で表示内容を切り替えることもできます。
- 音声はモノラルになります。
- お使いのテレビによっては、画像の一部が表示されないことがあります。
- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

参考

- USBクレードルを使わずに、別売のモバイルAVケーブル(EMC-3A)でカメラのクレードル接続端子とテレビの映像入力端子を直接接続しても、テレビで画像を見ることができます。
- DVDレコーダーやビデオデッキとUSBクレードルを介して接続して、カメラの画像を録画することができます。録画するにはさまざまな接続方法がありますが、一例として、付属のAVケーブルを次のように接続します。
 - DVDレコーダーやビデオデッキ側:映像入力端子、音声入力端子
 - カメラ側:USBクレードルの[AV OUT](AV出力)端子このとき、カメラでスライドショーを実行すれば、静止画や動画を記録した思い出のDVDやビデオテープが簡単に作れます。スライドショーの設定を“のみ”にすれば、動画だけの録画もできます(99ページ)。また、情報表示を“切”に設定にすることで、画像だけを録画することができます(39ページ)。
録画する画像の確認は、接続したDVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像をテレビなどに表示させてご確認ください。DVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像の見かたや録画方法については、DVDレコーダーやビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

■ 画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更する

本機では、ビデオ信号をNTSCまたはPAL、テレビ画面のアスペクト比(横縦比)を4:3または16:9のいずれかで出力できます。お買い上げいただいたときは、日本国内の仕様に合わせて、NTSC4:3で出力します。

海外でお使いの場合でPAL仕様のテレビにつなぐときは、ビデオ信号の出力をPALに切り替えてください。

- NTSC4:3 :日本のほか、アメリカなどでも使用されています。通常の画面比率のテレビ用です。
- NTSC16:9:日本のほか、アメリカなどでも使用されています。ワイド画面のテレビ用です。
- PAL4:3 :ヨーロッパなどで使用されています。通常の画面比率のテレビ用です。
- PAL16:9 :ヨーロッパなどで使用されています。ワイド画面のテレビ用です。

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“ビデオ出力”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

★ 重要

- お使いのテレビ画面のアスペクト比(4:3または16:9)に合わせ、正しく設定してご利用ください。このとき、テレビ側のアスペクト比の設定も正しく設定されている必要があります。カメラとテレビ両方のアスペクト比の設定が揃っていないと、画面が正常に表示されない場合があります。
- 本機のビデオ方式とテレビのビデオ方式が合わないと正しく表示されません。
- NTSC、PAL以外の方式のテレビでは、画像は正しく表示されません。

画像を拡大して表示する

撮影した静止画を8倍まで拡大して見ることができます。

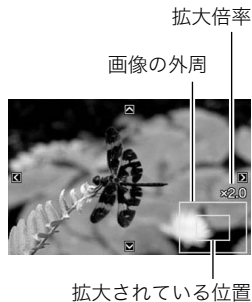
1. 再生モードにして、【◀】【▶】で拡大したい静止画を表示させる

2. ズームボタンの【Q】(Q)側を押して、画像を拡大表示させる。

【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。

ズームボタンの【AAA】側を押すと、縮小表示されます。

- 情報表示をオンにしてあるとき、画像の右下に、拡大されている位置が表示されます。



元の表示に戻るには

【MENU】または【BS】を押します。

重要

- 画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。

画面に12枚の画像を表示する

撮影した内容を同時に12枚一覧表示できます。

1. 再生モードにしてズームボタンの【AAA】(AAA)側を押す

画面に12の画像が表示され、最後に見ていた画像が枠で囲まれて表示されます。



2. 表示を切り替える

- 【◀】【▶】を押していくと、前後の12枚を表示します。
- 通常表示(1枚表示)で見たいときは【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

カレンダー形式で画像を表示する

1ヶ月分のカレンダーの日付上に、その日に撮影した最初の画像を表示させることができます。日付から画像をすばやく探すことができます。

1. 再生モードにしてズームボタンの【】(【】)側を2回押す

カレンダー表示になり、日付と、その日に撮影した最初の画像が表示されます。

- 【MENU】を押してから、“再生機能”タブ→“カレンダー表示”と選び、【▶】を押してもカレンダー表示になります。
- カレンダー表示をやめるには、【MENU】または【BS】を押します。

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で見たい画像のある日付に枠を合わせ、【SET】を押す

その日に撮影した最初の画像が表示されます。



参考

- カレンダー表示での年/月は、“表示スタイル”(131ページ)の設定によります。

重要

- 下記の機能を使用して保存した画像は、カレンダー表示の日付には正しく反映して表示することができません。各機能で保存した時点の日付で表示される画像
 - アンクル補正/退色補正/リサイズ/トリミング/コピー撮影時の日付で表示される画像
 - 日時編集

画像でルーレットを楽しむ(画像ルーレット)

カメラに記録されている静止画を、液晶モニターで、ルーレットのように次々と切り替えます。最後にどの画像が表示されるかまったくわかりません。くじ引き、罰ゲーム、サイコロ、おみくじなど、アイデア次第でいろいろな楽しみかたができます。

1. 電源を切った状態で、【◀】を押したまま【▶】を押し続ける

- 画像が表示されるまで押し続けてください。
- 画像ルーレットが始まり、しばらくすると止まります。

画像ルーレットを繰り返すには

【◀】または【▶】を押します。

画像ルーレットを終えるには

【📷】を押して撮影モードにするか、【ON/OFF】を押して電源を切ります。

- 最後の静止画が表示されてから約1分以上画像ルーレットを繰り返さないと、通常の再生モードになります。

重要

- 動画や音声のみの記録は画像ルーレットの対象になりません。
- 回転表示させた静止画(112ページ)は、回転させる前の状態に戻って表示されます。
- 本機で撮影した画像がルーレットの対象となります。他の画像が入っていると、画像ルーレットが動作しない場合があります。
- 画像ルーレット機能は“【📷】/【▶】”の動作設定(133ページ)が“パワーオン”または“パワーオン/オフ”の場合に使用できます。

撮影した画像を編集する

画像サイズを変える(リサイズ)

撮影した静止画のサイズを変えて、新しい静止画として保存することができます。元の静止画も残ります。以下の3つのサイズに変えることができます。

画素数(pixels)		プリントサイズ	
大きい	5M※	2560×1920	A3プリント
	3M	2048×1536	A4プリント
↑ ↓ 小さい	VGA	640×480	Eメール • Eメールで画像を送りたい場合に最適です。

※Mはメガ(100万)の意味です。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“リサイズ”と選び、【▶】を押す
3. 【◀】【▶】でリサイズしたい静止画を表示させる
4. 【▲】【▼】で変更後のサイズを選び、【SET】を押す
 - 画像サイズの選択中は、画素数(pixel数)とプリントサイズが自動的に切り替わって表示されます。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。

5. 続けて別の静止画をリサイズする場合は手順3、手順4を繰り返す

- リサイズをやめるには“キャンセル”を選んで【SET】を押してください。

重要

- 次の画像はリサイズできません。
 - サイズがVGA(640×480 pixels)以下の画像
 - モーションプリント機能で作成した画像
 - このカメラで撮影した画像以外の画像
- 16:9、および3:2の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズ後の静止画を保存できるだけのメモリー容量が残っていないときは、リサイズできません。
- リサイズした静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

静止画の一部を切り抜く(トリミング)

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存することができます。元の静止画も残ります。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】でトリミングしたい静止画を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. “再生機能”タブ→“トリミング”と選び、【▶】を押す

- 静止画が表示されているときのみ操作できます。



4. ズームボタンで静止画を拡大、縮小したり、【▲】【▼】【◀】【▶】で表示位置を変えて、切り抜く部分を決める

5. 【SET】を押す

- トリミングをやめるには、【SET】を押す前に【MENU】を押します。

重要

- 次の画像はトリミングできません。
 - モーションプリント機能で作成した画像
 - このカメラで撮影した画像以外の画像
- 3:2、16:9の画像をトリミングすると、画像の横縦比が4:3になります。
- トリミング後の静止画を保存できるだけのメモリー容量が残っていないときは、トリミングはできません。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

黒板やポスターを正面から見たように補正する(アングル補正)

すでに撮影した黒板、書類、ポスターや写真などの静止画を、正面から撮影したように(長方形・正方形に)ゆがみを補正します。アングル補正した画像は、アングル補正する前の画像とは別に、最新ファイルとして2M(1600×1200 pixels)のサイズで保存されます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で補正したい静止画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“アングル補正”と選び、【▶】を押す
補正確認画面が表示されます。
 - 静止画が液晶モニターに表示されているときのみ操作することができます。
4. 【◀】【▶】で補正候補を選ぶ



5. 【▲】【▼】で“補正”を選び、【SET】を押す

- 補正を中止する場合は“キャンセル”を選びます。

重要

- 元の画像サイズが2M(1600×1200 pixels)より小さい場合は、元の画像と同じサイズで保存されます。
- 次の画像はアングル補正できません。
 - 動画
 - モーションプリント機能で作成した画像
 - このカメラで撮影した画像以外の画像
- アングル補正した画像を保存できるだけのメモリー容量が残っていない場合は、アングル補正できません。
- アングル補正した画像をカメラで表示した場合、日付はアングル補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。
- アングル補正した画像をカレンダー表示した場合、画像はアングル補正した日付上に表示されます(105ページ)。

古く色あせた写真を補正する(退色補正)

デジタルカメラで撮影した古く色あせた写真を、後から退色の補正をすることができます。すでに撮影した古い写真やポスターなどを補正するのに便利です。

- 退色補正した画像は、退色補正する前の画像とは別に、最新ファイルとして2M(1600×1200 pixels)のサイズで保存されます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で補正したい静止画を表示させる

2. 【MENU】を押す

3. “再生機能”タブ→“退色補正”と選び、【▶】を押す

4. 【◀】【▶】で写真の輪郭候補を選ぶ

5. 【▲】【▼】で“決定”を選び、【SET】を押す

画像の一部を切り抜く操作(トリミング)により、液晶モニターに画像を切り抜くための枠が表示されます。

- “キャンセル”を選ぶと、補正せず、何も保存されずに終了します。

6. ズームボタンを押して、枠を拡大/縮小する

- 表示されている画像のサイズによって、トリミングできる枠の大きさが変わります。

7. 【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分に枠を移動し、【SET】を押す

あせた色を自動的に補正し、画像を保存します。

- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真よりも小さい枠で画像を切り抜いてください。
- 【MENU】を押すとトリミングを中止し、何も保存されずに退色補正が終了します。

重要

- 元の画像サイズが2M(1600×1200 pixels)より小さい場合は、元の画像と同じサイズで保存されます。
- 次の画像は退色補正できません。
 - 動画、ボイスレコードファイルのアイコン
 - モーションプリント機能で作成した画像
 - このカメラで撮影した画像以外の画像
- 退色補正した画像を保存できるだけのメモリー容量が残っていない場合は、退色補正できません。
- 退色補正した画像をカメラで表示した場合、日付は退色補正した日付ではなく、退色補正で設定した日付が表示されます。
- 退色補正した画像をカレンダー表示した場合、画像は退色補正した日付上に表示されます(105ページ)。

参考

- 退色補正を撮影から補正まで一貫して行いたい場合は、「古く色あせた写真を蘇らせる(よみがえりショット)」(75ページ)をご覧ください。

撮影画像の日時情報を修正する

すでに撮影した画像の日時情報(撮影日/撮影時刻)をカメラで修正することができます。次のようなときに便利です。

- 日時設定(10ページ)をしないで、誤った日時のままで撮影してしまったとき
- 旅行中にワールドタイム(132ページ)の訪問先を変更しないで、撮影してしまったとき

1. 再生モードにして、**【◀】【▶】**で日時を修正したい静止画を表示させる

2. **【MENU】**を押す

3. “再生機能”タブ→“日時編集”と選び、**【▶】**を押す

4. 日付と時刻を修正する

【▲】【▼】：カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。

【◀】【▶】：カーソル(選択枠)を移動します。

【BS】：12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

5. **【SET】**を押して、修正を終了する

- 修正後は、画面を表示して、日時が正しく修正されたかどうかを確認してください。

重要

- 次のファイルは日付を修正できません。
 - 動画、ボイスレコード
 - モーションプリント機能で作成した画像
- タイムスタンプ機能により写し込んだ日付と時刻は修正できません(90ページ)。
- メモリープロテクトのかかったファイルは、日時を修正できません。メモリープロテクトを解除してから、日時を修正してください。
- 入力できる日付は、1980年1月1日～2049年12月31日となります。

画像を回転させる

撮影した画像(静止画、動画)を回転して表示させることができます。カメラを縦に構えて撮影した画像を見るときなどに便利です。さらに回転させて元の状態に戻すことができます。

- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. “再生機能”タブ→“回転表示”を選び、【▶】を押す

- 静止画または動画が表示されているときのみ操作できます。

3. 【◀】【▶】で回転させたい画像を表示させる

4. 【▲】【▼】で“回転”を選び、【SET】を押す

【SET】を押すごとに、90° 左回りに回転します。




5. 希望の表示状態になったら【MENU】を押す

重要

- メモリープロテクトをかけた画像を回転させることはできません。回転させたいときは、メモリープロテクトを解除してください(122ページ)。
- 他のカメラで撮影した画像は回転できない場合があります。
- 次の画像は回転させることはできません。
 - ボイスレコードファイルのアイコン
 - モーションプリント機能で作成した画像
 - 拡大表示された画像
- 12画面表示、カレンダー表示では、回転前の静止画が表示されます。
- 動画は、カメラ上で再生したときのみ、回転表示させることができます。パソコンに取り込んだ動画は回転していません。

動画をカットする(ムービーカット)

撮影した動画の一部をカット(削除)することができます。以下の3通りのカット方法があります。

 カット (前カット)	選択した場面から前をカットします。
 カット (中カット)	選択した場面と場面の間をカットします。
 カット (後カット)	選択した場面から後をカットします。


重要

- カット編集すると、元の動画は残りません。一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。
- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- カット編集しようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。その場合は、不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けたり、二つの動画を一つにすることはできません。

■ 前カット、後カットする

1. カットしたい動画を再生する

2. 【SET】を押して一時停止する

- “” (カットアイコン) が表示されていることを確認してください。表示されていない場合は、もう一度【SET】を押してください。



カットアイコン

3. 【▼】を押す

- 以下のように操作しても同じ画面が表示されます。
 - ① 再生モードでカットしたい動画を選び、【MENU】を押す
 - ② “再生機能” タブ→“ムービーカット”と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“ カット”(前カット)または“ カット”(後カット)を選び、【SET】を押す

- カットを中止するときは、“キャンセル”を選んで【SET】を押します。一時停止状態に戻ります。

5. 以下の操作で、カットしたい位置(境界のコマ)を探す
早戻し/早送りする:

【◀】【▶】を押す

再生と一時停止を切り替える:

【SET】を押す

一時停止中にコマ送りする:

【◀】【▶】を押す

- バーの赤い部分がカットされます。
- カットを中止するときは、【MENU】を押します。手順3の画面に戻ります。

6. カットしたい位置が決まったら【▼】を押す

7. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

- カットを中止するときは、“いいえ”を選んで【SET】を押します。一時停止状態に戻ります。
- カットには、しばらく時間がかかります。“処理中ですしばらくお待ちください”の表示が消えるまで待ってください。編集する動画が長いときは非常に時間がかかることがあります。



■ 中カットする

1. カットしたい動画を再生する


2. 【SET】を押して一時停止する



カットアイコン

3. 【▼】を押す

- 以下のように操作しても同じ画面が表示されます。
 - ① 再生モードでカットしたい動画を選び、【MENU】を押す
 - ② “再生機能”タブ→“ムービーカット”と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“カット”(中カット)を選び、【SET】を押す

- カットを中止するときは、“キャンセル”を選んで【SET】を押します。一時停止状態に戻ります。

5. 以下の操作で、カットする部分の先頭の場面(コマ)を探す

早戻し/早送りする:

【◀】【▶】を押す

再生と一時停止を切り替える:

【SET】を押す

一時停止中にコマ送りする:

【◀】【▶】を押す

- カットを中止するときには、【MENU】を押します。手順3の画面に戻ります。

6. 先頭の場面が決まったら、【▼】を押す

7. 手順5と同様に操作し、カットする部分の最後の場面(コマ)を探す

- バーの赤い部分がカットされます。

8. 最後の場面が決まったら、【▼】を押す

9. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

- カットを中止するときには、“いいえ”を選んで【SET】を押します。一時停止状態に戻ります。
- カットには、しばらく時間がかかります。“処理中ですしばらくお待ちください”の表示が消えるまで待ってください。編集する動画が長いときは非常に時間がかかることがあります。



動画から静止画を作成する (モーションプリント)

撮影した動画から印刷用の静止画を作ることができます。以下の2種類から選べます。

9コマで作成
(2M 1600×
1200 pixels)

選んだ場面を最も大きくレイアウトした9コマを1枚の静止画にして記録します。



1コマで作成
(VGA 640×
480 pixels)

選んだ1コマを静止画にして記録します。




1. 再生モードにして、【◀】【▶】で素材にする動画を表示させる
2. 【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“モーションプリント”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“9コマで作成”または“1コマで作成”を選ぶ
5. 【◀】【▶】で静止画にしたい場面を探す
 - 【◀】【▶】を押し続けると、早戻し／早送りができます。
6. 【SET】を押す
 - “9コマで作成”を選んだときは、手順6の場面が最も大きくレイアウトされた9コマが静止画になります。
 - “1コマで作成”を選んだときは、手順6の場面が静止画になります。

重要

- このカメラで撮影した動画以外は、モーションプリントできません。

音声を活用する

静止画に音声を追加する(アフレコ)

音声を付けずに撮影した静止画に、あとから音声を付けることができます(アフレコ)。あとから音声を付けた場合も、その静止画は音声付きの静止画(“”が表示される静止画)になります。音声付きの静止画の音声を録音し直すこともできます。音声は、ひとつの静止画につき最長約30秒まで録音できます。

■ 音声を追加する

1. 再生モードにして、**[◀][▶]**で音声を追加したい静止画を表示させる
2. **[MENU]**を押す
3. “再生機能”タブ→“アフレコ”と選び、**[▶]**を押す
 - 静止画が表示されているときのみ操作することができます。
4. シャッターを押して録音を開始する
5. もう一度シャッターを押して録音を終了する
シャッターを押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。



追加した音声を聞くには

音声付き静止画の音声を聞くときと同じように操作します(97ページ)。

■ 音声を録音し直す



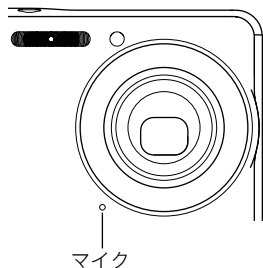
重要

- 音声を消去、変更すると、音声を元に戻すことはできません。

1. 再生モードにして、**[◀][▶]**で音声を録音し直したい静止画を表示させる
2. **[MENU]**を押す
3. “再生機能”タブ→“アフレコ”と選び、**[▶]**を押す
4. **[▲][▼]**で“消去”を選び、**[SET]**を押す
 - 音声を消すだけにしたいときは、続けて**[MENU]**を押してください。
5. シャッターを押して録音を開始する
前の録音は消え、新しい音声録音されます。
6. もう一度シャッターを押して録音を終了する
シャッターを押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。

重要

- 指などでマイクをふさがないようにご注意ください。
- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
- 残りのメモリー容量が少ないときは、録音できないことがあります。
- 次の画像には音声を追加することはできません。
 - 動画
 - モーションプリント機能で作成した画像
 - メモリープロテクトがかかっている画像




参考

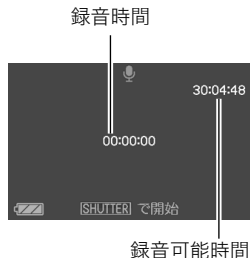
- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 録音形式: WAVE/ADPCM記録形式 (拡張子は.WAV)
 - 音声ファイルサイズ: 約165KB (約5.5KB/秒で30秒間録音時)

音声だけを録音する(ボイスレコード)

静止画や動画は撮影せず、音声だけを録音することができます。内蔵メモリーを使った場合、最長約18分録音できます。

- 撮影モードにして【BS】を押す
- 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ボイスレコード”を選び、【SET】を押す
液晶モニターに“”が表示されます。
- シャッターを押して録音を開始する

- 録音中は、動作確認用ランプが緑色に点滅します。
- 録音中に【DISP】を押すと、液晶モニターが消灯します。
- 録音中に【SET】を押すと、その部分にマークが付き、再生するとき、マークの位置に簡単に移動できます。



4. もう一度シャッターを押して録音を終了する

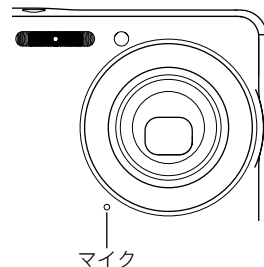
- シャッターを押さなくても、メモリーがいっぱいになると録音は終了します。
- 録音途中で【ON/OFF】(電源)や【▶】(再生)を押したときや電池が消耗したときも、録音は終了し、そこまでの音声記録されます。

5. 続けて次の録音をする場合は手順3、手順4を繰り返す

- ボイスレコードをやめるには、【BS】を押し、“ボイスレコード”以外の設定を選んで【SET】を押してください。たとえば、“オート”での静止画撮影ができる状態にするには、“オート”を選んで【SET】を押します。

重要

- 指などでマイクをふさがないようにご注意ください。
- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。




参考

- ボイスレコードで録音した音声は、パソコンで再生することもできます (WindowsではWindows Media Player、MacintoshではQuickTimeを使用します)。
- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 録音形式: WAVE/ADPCM記録形式 (拡張子は.WAV)
 - 音声ファイルサイズ: 約165KB (約5.5KB/秒で30秒間録音時)

■ ボイスレコードの音声を聞く

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で再生したいボイスレコードの画面を表示させる

ボイスレコードの画面には、“

2. 【SET】を押して再生を始める



音声の再生中にできること

再生中に、以下の操作ができます。

早送り/早戻しする	【◀】【▶】を押し続ける
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
マークの位置から再生する	一時停止中に【◀】【▶】を押し、希望のマークの位置で【SET】を押す
音量を調節する	【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生または一時停止中にだけできます。
液晶モニターの表示のオン/オフを切り替える	【DISP】を押す
再生をやめる	【MENU】を押す

撮ったものを整理する

ファイルとフォルダについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが、個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。撮影したものをファイルとして扱うことにより、ファイル単位で消去したり、誤消去防止の設定をしたり、コピーしたり、といった操作が可能になります。

各ファイルは、本機が自動的に作成する「フォルダ」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。

ファイル、フォルダには、区別のための名前が付けられます。ファイル名、フォルダ名とも、本機が自動的に付けます。

- フォルダの構造に関して詳しくは、「メモリー内のフォルダ構造」(173ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	“CIMG0001”から“CIMG9999”までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。 <ul style="list-style-type: none">• ひとつのフォルダに9999個のファイルが入っているときに次の撮影をすると、自動的に新しいフォルダができます。	26番目に記録したファイル名： CIMG0026.JPG └──┬──┘ 連番(4桁) 拡張子
フォルダ	“100CASIO”から“999CASIO”までです。 <ul style="list-style-type: none">• 最大900のフォルダが作成されます。	連番100のフォルダ名： 100CASIO └──┘ 連番(3桁)

参考

- フォルダ名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、185ページをご覧ください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。

ファイルを消去できないようにする

大事なファイルを誤って消してしまうことのないよう、ファイルごとに、またはすべてのファイルに、消去防止(メモリープロテクト)を設定することができます。

重要

- メモリープロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(12、33、134ページ)を行うと、消去されてしまいます。

■ ファイルごとにメモリープロテクトをかける

- 再生モードにして【MENU】を押す
- “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押す
- 【◀】【▶】でメモリープロテクトをかけたいファイルを表示させる
- 【▲】【▼】で“オン”を選び、【SET】を押す
メモリープロテクトがかかり、“**On**”が表示されます。



- 続けて別のファイルにメモリープロテクトをかける場合は手順3、手順4を繰り返す
 - メモリープロテクトの設定をやめるには、【MENU】を押してください。

メモリープロテクトを解除するには

手順4で“オフ”を選んで【SET】を押します。

■ 全ファイルにメモリープロテクトをかける

- 再生モードにして【MENU】を押す
- “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押す
- 【▲】【▼】で“全ファイル オン”を選び、【SET】を押す
これで、すべてのファイルにメモリープロテクトがかかります。
- 【MENU】を押す

すべてのファイルのメモリープロテクトを解除するには
手順4で“全ファイル オフ”を選んで【SET】を押します。

お気に入りフォルダを使う

お気に入りフォルダとは内蔵メモリーの中に用意されているフォルダで、通常の再生ではその中身を見ることはできません。思い出の風景や家族の写真、またはプライベートな写真などを入れておくと、メモリーカードを変えても、またはメモリーカードを入れていなくても見ることができます。好きな静止画をいつも持ち歩きたいときなどにお使いください。

重要

- お気に入りフォルダに登録できるのは、静止画だけです。音声付き静止画の場合は、静止画だけがお気に入りフォルダに登録されます。

■ お気に入りフォルダにファイルを登録(コピー)する

- 再生モードにして【MENU】を押す
- “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押す
- 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す
- 【◀】【▶】でお気に入りフォルダに登録したい静止画を表示させる
- 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す
静止画がお気に入りフォルダに登録されます。

- 続けて別のファイルをお気に入りフォルダに登録する場合は手順4、手順5を繰り返す

- 登録をやめるには、【MENU】を2回押してください。

重要

- お気に入りフォルダに静止画を登録すると、QVGA(320×240 pixels)のサイズに変更されます。お気に入りフォルダの静止画のサイズを元に戻すことはできません。
- お気に入りフォルダに登録したファイルをメモリーカードにコピーすることはできません。

参考

- 登録できるファイル数は、画質、内蔵メモリーの空き容量により異なります。

■ お気に入りフォルダの静止画を見る

- 再生モードにして【MENU】を押す
- “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押す
- 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押す

4. 【◀】【▶】でお気に入りフォルダの静止画を切り替える



お気に入りフォルダアイコン

5. 【MENU】を2回押す

お気に入りフォルダの表示が終了します。

お気に入りフォルダの内容をパソコンで表示するときは

1. カメラからメモリーカードを取り出す
2. カメラをUSBクレードルにセットする
3. カメラをパソコンから操作する

パソコン上では、お気に入りフォルダは“FAVORITE”フォルダとして表示されます。

ファイルをコピーする

内蔵メモリーからメモリーカードへ、またはメモリーカードから内蔵メモリーへ、ファイルをコピーすることができます。たとえば、自分のメモリーカードを使って撮影した画像を他の人のメモリーカードにコピーしてあげるときは、次のような手順になります。

- ① 自分のメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする
- ② 自分のメモリーカードを抜いて、他の人のメモリーカードをセットする
- ③ 内蔵メモリーから、そのメモリーカードにコピーする

重要

- コピーできるのは、カメラで撮影した静止画、動画、音声付き静止画、ボイスレコードファイルだけです。
- お気に入りフォルダからのコピーはできません。

■ 内蔵メモリーからメモリーカードにコピーする

内蔵メモリーからメモリーカードにコピーする場合は、すべてのファイルがコピーされます。1ファイルずつ指定してコピーすることはできません。

1. ファイルをコピーしたいメモリーカードを本機に入れる
2. 電源を入れ、再生モードにして【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“コピー”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“内蔵→カード”を選び、【SET】を押す
コピーが始まります。“処理中です しばらくお待ちください”の表示が消えたらコピー終了です。
 - コピーが終了すると、コピーしたフォルダの最後のファイルが表示されます。

■ メモリーカードから内蔵メモリーにコピーする

メモリーカード内のファイルをひとつひとつ内蔵メモリーにコピーできます。

1. コピーしたいファイルが入ったメモリーカードを本機に入れる
2. 電源を入れ、再生モードにして【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“コピー”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“カード→内蔵”を選び、【SET】を押す
5. 【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選ぶ
6. 【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押す
コピーが始まります。“処理中です しばらくお待ちください”の表示が消えたらコピー終了です。
 - コピーが終了すると、コピーを始める前に表示されていたファイルに戻ります。
7. 続けて別のファイルをコピーする場合は手順5、手順6を繰り返す
 - コピーをやめるには、【MENU】を押してください。

参考

- ファイルは、内蔵メモリーの一番大きい番号のフォルダにコピーされます。

消去する

プリントしたり、パソコンにコピーした画像のファイルは、メモリーから消去して、次の撮影のための容量を確保することができます。


ファイルの消去には、1つずつ消去する方法とすべてのファイルを1回の操作で消去する方法があります。

ここでは、併せてお気に入りフォルダ内のファイルの消去のしかたも説明します。

重要

- 消去したファイルは元に戻せません。消去する前に、本当に不要かどうかよく確認してください。
- メモリープロテクトのかかったファイルは消去できません。消去するときは、メモリープロテクトを解除してください(122ページ)。
- 音声付きの静止画を消去すると、静止画といっしょに音声ファイルも消去されます。


1 ファイルずつ消去する

1. 再生モードにして【▼】
()を押す



2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる
3. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す
 - 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。
4. 続けて別のファイルを消去する場合は手順2、手順3を繰り返す
 - 消去をやめるには、【MENU】を押してください。


すべてのファイルを消去する

1. 再生モードにして【▼】(⚡ )を押す
2. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押す
3. 【▲】【▼】で“はい”を選ぶ
 - 消去を中止するときは、“いいえ”を選んでください。
4. 【SET】を押す
 - すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

お気に入りフォルダのファイルを消去する

お気に入りフォルダ内のファイルも、1ファイルずつ、または一括して消去できます。

■ 1ファイルずつ消去する

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押す
4. 【▼】(⚡ )を押す
5. 【◀】【▶】で消去したいファイルを選ぶ
6. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す
7. 続けて別のファイルを消去する場合は手順5、手順6を繰り返す
 - 消去をやめるには、【MENU】を2回押してください。

■ すべてのファイルを消去する

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押す
4. 【▼】(🔌🗑️)を押す
5. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押す

参考

- 内蔵メモリーをフォーマットしたとき(134ページ)も、お気に入りフォルダのすべてのファイルが消去されます。

その他の設定について

カメラの音を設定する


カメラの音について、次の設定ができます。

- シャッター音や操作したときの音の種類
- シャッター音や操作したときの音の音量
- 動画やボイスレコードの再生音の音量

■ 操作音の種類を選ぶ

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定したい音を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
サウンド1～5：内蔵されたサンプル音が鳴ります。
切：音は鳴りません。

■ 操作音量を設定する

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“ 操作音”を選ぶ

4. 【◀】【▶】で再生したい音量を選び、【SET】を押す


- 音量は“0”（最小）～“7”（最大）の8段階の間で設定できます。
- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

■ 参考

- 操作音の設定はビデオ出力時(101ページ)の音量にも反映されます。

■ 再生音量を設定する

操作音とは別に、動画や音声付き静止画の音量を設定することができます。

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“ 再生音”を選ぶ
4. 【◀】【▶】で再生したい音量を選び、【SET】を押す
 - 音量は“0”（最小）～“7”（最大）の8段階の間で設定できます。
 - 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

★ 重要

- 再生音の設定はビデオ出力時(101ページ)音量に反映されません。

起動画面のオン/オフを切り替える

カメラが記録している画像を、起動画面として液晶モニターに表示させることができます。

- **【▶】** (再生) を押して電源を入れた場合は、起動画面は表示されません。

1. **【MENU】** を押す
2. “設定” タブ→“起動画面” と選び、**【▶】** を押す
3. **【◀】【▶】** で起動画面にしたい画像を表示させる
4. **【▲】【▼】** で設定内容を選び、**【SET】** を押す
入：選んだ画像を起動画面として表示します。
切：起動画面は表示しません。

参考

- 起動画面に設定できる画像は以下の通りです。
 - カメラに内蔵されている起動画面用の専用画像
 - 静止画
 - 音声付き静止画 (音声は再生されません)
- 起動画面は、1つだけ登録できます。起動画面を変更すると、メモリー内の画像は上書きされます。
- 登録した起動画面は、内蔵メモリーをフォーマット (134 ページ) すると消去されます。

画像の連番のカウント方法を切り替える

撮影時に画像に付く連番 (121 ページ) のカウント方法を切り替えることができます。

1. **【MENU】** を押す
2. “設定” タブ→“ファイルNo.” と選び、**【▶】** を押す
3. **【▲】【▼】** で設定内容を選び、**【SET】** を押す

メモリする : 今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、メモリーカードを交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。

メモリしない : ファイルをすべて消去したり、メモリーカードを交換すると、ファイルの連番を継続せずに、0001 番からファイル名を始めます。

カメラの日時を設定し直す

日時を設定し直したいときは、ホームタイムの都市(カメラを使用する都市)を設定してから日時を設定します。日時だけを設定し直したいときは、「ホームタイムの日時を設定し直す」の操作だけで日時を設定することができます。

重要

- 日時を設定する前にホームタイムを自分の住んでいる地域に設定しないと、ワールドタイム(132ページ)の日時が正しく表示されません。

■ ホームタイムの都市を設定し直す

1. **【MENU】**を押す
2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、**【▶】**を押す
現在設定されている内容が表示されます。
3. **【▲】【▼】**で“自宅”を選び、**【▶】**を押す
4. **【▲】【▼】**で“都市”を選び、**【▶】**を押す
5. **【▲】【▼】【◀】【▶】**で自宅の地域を選び、**【SET】**を押す
6. **【▲】【▼】**で自宅の都市を選び、**【SET】**を押す
 - 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。
7. **【SET】**を押して、設定を終了する

■ ホームタイムの日時を設定し直す

1. **【MENU】**を押す
2. “設定”タブ→“日時設定”と選び、**【▶】**を押す
3. 日付と時刻を合わせる
【▲】【▼】：カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】：カーソル(選択枠)を移動します。
【BS】：12時間表示と24時間表示の切り替えができます。
4. **【SET】**を押して、設定を終了する

■ 日付の表示スタイルを切り替える

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

1. **【MENU】**を押す
2. “設定”タブ→“表示スタイル”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】【▼】**で設定内容を選び、**【SET】**を押す

例) 2006年12月19日
年/月/日:06/12/19
日/月/年:19/12/06
月/日/年:12/19/06

ワールドタイムを表示する

購入時に設定した自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

ワールドタイムを設定する

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押す
 - サマータイムを設定するときは、【▲】【▼】で“サマータイム”を選び、“入”に設定します。
 - サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。
 - サマータイムの採用時期は国や地域によって異なります(日本では採用されていません)。



5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で訪問先の地域を選び、【SET】を押す
6. 【▲】【▼】で訪問先の都市を選び、【SET】を押す
7. 【SET】を押して、設定を終了する

■ ワールドタイムとホームタイムの表示を切り替える

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選ぶ
自宅 : ホームタイムの日時を表示します。
訪問先 : ワールドタイムの日時を表示します。
4. 【SET】を押して、設定を終了します。

表示言語を切り替える

画面のメッセージの言語を変更することができます。

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“Language”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

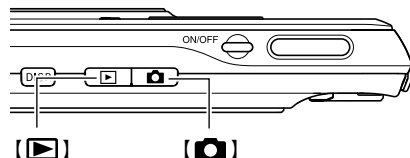
USB通信の方法を切り替える

パソコンやプリンターなどの外部機器と接続するときの、USB通信の方法を切り替えることができます。接続する機器に合わせて切り替えてください。

1. **【MENU】**を押す
2. “設定”タブ→“USB”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】****【▼】**で使用する機器に合わせて設定を選び、**【SET】**を押す
 - Mass Storage:
パソコンを接続する場合に選びます。パソコンにカメラを外部記憶装置として認識させる方法です。通常、パソコンへの画像の保存の操作時(付属のソフト「PhotoLoader」使用時)はこちらを選んでください。
 - PTP (PictBridge):
PictBridge対応(137ページ)のプリンターを接続する場合に選びます。画像データを外部接続機器に簡単に転送するための接続方法です。







【📷】(撮影) / 【▶】(再生)の動作を設定する

【📷】(撮影)や**【▶】(再生)**を押しても電源が入らないようにしたり、**【📷】(撮影)**や**【▶】(再生)**を押して電源を切ることができるように設定することができます。



1. **【MENU】**を押す
2. “設定”タブ→“REC/PLAY”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】****【▼】**で設定内容を選び、**【SET】**を押す
 - パワーオン : **【📷】(撮影)**や**【▶】(再生)**を押すと、電源が入ります。
 - パワーオン/オフ : **【📷】(撮影)**や**【▶】(再生)**を押して、電源を入れたり切ったりできます。
 - 切 : **【📷】(撮影)**や**【▶】(再生)**を押しても、電源は入りません。

参考

- “パワーオン/オフ”に設定しているときは、撮影モードで【】(撮影)を押した場合と再生モードで【】(再生)を押した場合に電源が切れます。
- 撮影モードで【】(再生)を押したときは再生モードに、再生モードで【】(撮影)を押したときは撮影モードに切り替わります。
- 電源が入っているときに【】(撮影)や【】(再生)を押すと、メニュー操作中であっても、ただちに撮影可能状態や再生状態になります。
- お買い上げいただいたときは、“パワーオン”に設定されています。
- テレビに画像を映し出す場合は、“切”以外に設定する必要があります。

内蔵メモリーをフォーマットする

内蔵メモリーをフォーマットすると、内蔵メモリーの内容がすべて消去されます。

重要


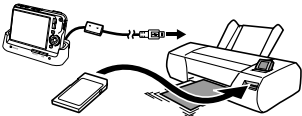
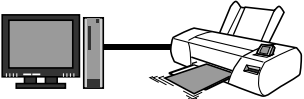
- 内蔵メモリーをフォーマットすると、データを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 次の画像も同時に消去されます。
 - メモリープロテクトされた画像
 - お気に入りフォルダの画像
 - ベストショットモードでカスタム登録した内容
 - 起動画面に設定した画像
- フォーマット操作を行うときは、十分に充電された電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中は、絶対に電池カバーを開けないでください。カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

1. 本機にメモリーカードが入っていないことを確認する
 - メモリーカードが入っている場合は、取り出してください。
2. 【MENU】を押す
3. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押す
内蔵メモリーがフォーマットされます。
 - フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。
 - フォーマットが完了すると、再生モードの場合は“ファイルがありません”と表示されます。

プリント(印刷)する

プリントのしかたあれこれ

撮影した画像は、3通りの方法でプリントできます。

お店で プリントする (137ページ)	 <p>○△プリント</p>	<p>撮影に使ったメモリーカードを、プリントサービスのお店に持参してプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">● プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。
自宅で プリントする	プリンターでプリントする(137ページ) 	PictBridge に対応しているプリンターや、メモリーカードを差し込むスロットが付いているプリンターでプリントします。
	パソコンを使ってプリントする 	<p>■Windowsパソコンの場合 付属のソフト(Photohands)をパソコンにインストールした後、プリントします。 →「Windowsパソコンを利用する」(144ページ)</p> <p>■Macintoshの場合 画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。 →「Macintoshを利用する」(163ページ)</p>

■ プリントについてのご注意

- 印刷品位や用紙の設定についてはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- PictBridge対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップなどについては、プリンターメーカーにお問い合わせください。
- プリント中は、ケーブルを抜いたり、カメラやUSBクレードルの操作を行わないでください。プリンターがエラーを起すことがあります。

すべての画像をプリントするときに気をつけていただきたいこと

データキャッシング機能(175ページ)によりメモリーカードに転送した“書類データ”もプリントの対象になります。

そのため、書類データが転送されたメモリーカードのすべての画像をプリントするように指定してお店や自宅でプリントすると、すべての書類データのすべてのページもプリントされてしまいますので、ご注意ください(140ページ)。

お店でプリントする

プリントしたい画像が記録されているメモリーカードを、プリントサービスを行っているカメラ店などに持参してプリントします。DPOF機能(139ページ)を使って、プリントしたい画像や枚数、日付プリントの設定をあらかじめしておく、お店での手続きが簡単です。

お手持ちのプリンターでプリントする

お手持ちのプリンターが以下のどちらかのタイプの場合、パソコンを使わずにプリントできます。

- SDメモリーカード/SDHCメモリーカードスロット付のプリンター
- PictBridgeに対応しているプリンター

■ SDメモリーカード/SDHCメモリーカードスロット付のプリンターでプリントする

SDメモリーカード/SDHCメモリーカードをカメラから取り出し、プリンターのスロットに直接セットしてプリントできます。また、プリンターによってはカメラのDPOF機能(139ページ)で設定した内容(画像の指定、枚数、日付)が利用可能です。詳しくは、プリンターに付属の説明書にしたがって操作してください。

■ PictBridge対応のプリンターでプリントする

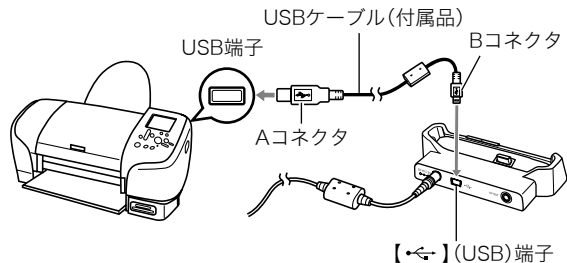
カメラをプリンターに直接接続し、カメラの液晶モニター上でプリントする画像を選んでプリントできます。

- このカメラは付属のUSBクレードルを介してプリンターと接続しますが、すぐにUSBクレードルとプリンターを接続せずに、必ず以下の手順を進めてください。

1. **【MENU】**を押す
2. “設定”タブ→“USB”と選び、**【▶】**を押す

3. **【▲】【▼】**で“PTP (PictBridge)”を選び、**【SET】**を押す

4. 付属のUSBケーブルでUSBクレードルとプリンターのUSB端子を接続する



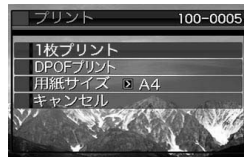
- USBクレードルにはACアダプターも接続しておいてください。
- ACアダプターを使用しないときは、十分に充電された電池をセットしてください。
- 付属のAVケーブルがUSBクレードルに接続されていると、カメラの液晶モニターには何も表示されませんので、AVケーブルは必ずUSBクレードルからはずしてください。

5. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットする

6. プリンターの電源を入れる

7. プリンターに印刷用紙をセットする

8. USBクレードルの**【USB】**を押す
カメラにプリントメニュー画面が表示されます。



9. **【▲】【▼】**で“用紙サイズ”を選び、**【▶】**を押す

10. **【▲】【▼】**でプリントする用紙サイズを選び、**【SET】**を押す

- 用紙サイズは次の通りです。
“L判”、“2L判”、“はがき”、“A4”、“Letter”、“プリンタで設定”
- “プリンタで設定”を選ぶと、プリンター側で設定した用紙サイズでプリントされます。
- 用紙について設定できる内容は、接続したプリンターによって異なります。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

11. 【▲】【▼】でプリントの方法を指定する

1枚プリント : 1枚ずつプリントする場合に選び、【SET】を押します。続けて【◀】【▶】でプリントしたい画像を選びます。

DPOFプリント: 複数の画像やすべての画像をプリントする場合に選び、【SET】を押します。DPOF機能で設定した画像がプリントされます。設定方法については139ページをご覧ください。

- 日付設定の入/切を切り替えるには、【BS】を押します。“あり”を表示させると、日付がプリントされます。



12. 【▲】【▼】で“プリント”を選び、【SET】を押す

プリントが始まり、液晶モニターに“処理中ですしばらくお待ちください”と表示されます。しばらくすると表示が消えますが、プリントは終了していません。カメラのいずれかのボタンを押すと、プリントの状況が再び表示されます。プリントが終了すると、プリントメニュー画面に戻ります。

- “1枚プリント”で別の画像をプリントする場合は、手順11から同様の操作を行ってください。

13. プリントが終了したらUSBクレードルの【USB】を押す カメラの電源が切れます。

プリントする画像や枚数を指定しておく (DPOF)

DPOF(Digital Print Order Format)とは、撮影した画像の中からプリントしたい画像や枚数などを設定し、その情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するための規格です。DPOF対応の家庭用プリンターやプリントサービス店でプリントすることができます。本機のDPOF機能を使えば、画像のファイル名などを意識することなく、液晶モニターで確認しながら設定ができます。



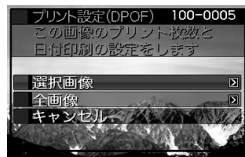
設定可能な内容は、画像/枚数/日付です。

重要

- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合や他の方法でプリントを受け付けている場合があります。その際は、店頭のサービスにしたがってプリントをご依頼ください。

■ 画像ごとにプリント枚数を指定する

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“プリント設定(DPOF)”と選び、【▶】を押す



3. 【▲】【▼】で“選択画像”を選び、【▶】を押す
4. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる
5. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める
 - プリント設定できる枚数は99枚までです。プリントしたくない場合は“00”にしてください。
6. 日付をプリントしたい場合は、【BS】を押して日付印刷を“あり”にする
 - 日付が不要なときは、【BS】を押して日付印刷を“なし”にします。
 - 他の画像をプリントする場合は、手順4～6を繰り返してください。
7. 【SET】を押す

■ すべての画像に同じプリント指定をする

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“プリント設定(DPOF)”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“全画像”を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める
 - プリント設定できる枚数は99枚までです。プリントしたくない場合は“00”にしてください。
5. 日付をプリントしたい場合は、【BS】を押して日付印刷を“あり”にする
 - 日付が不要なときは、【BS】を押して日付印刷を“なし”にします。
6. 【SET】を押す

次回のプリント時に気をつけていただきたいこと

プリントが完了してもDPOFの設定は自動的に解除されません。次回プリント時にも前回設定した画像がある場合、同じ画像がプリントされてしまいます。以前プリントした画像をプリントしない場合は、一度「すべての画像に同じプリント指定をする」(140ページ)の操作で、全画像プリントの枚数設定を“00”にしてから、あらためてプリント枚数を設定してください。

お店でプリントするときに気をつけていただきたいこと

お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容(画像、枚数、日付)が反映されず、すべての画像がプリントされたり、日付がプリントされないことがあります。

重要

- プリンターによっては、日付の設定が無効になったり、DPOFに対応していない場合があります。プリンターの取扱説明書にしたがって操作してください。

日付プリントについて

以下の方法で、画像に撮影時の日付を入れてプリントすることができます。

- **本機のDPOF機能で指定する(139ページ)**
 - 本機のタイムスタンプ機能により、日付や時刻を写し込んだ画像にDPOFで日付印刷を設定すると、日付が2重に印刷されてしまいますので、DPOFによる日付印刷は設定しないでください。
 - プリンターによっては、日付の設定が無効になったり、DPOF機能に対応していない場合があります。プリンターの取扱説明書にしたがって操作してください。
 - プリントをするお店によってはDPOF機能に対応していない場合がありますので、あらかじめご確認ください。
- **本機のタイムスタンプ機能により日付や時刻を画像に直接写し込む(90ページ)。**
- **付属のソフト「Photohands」で指定する(Windowsパソコンの場合)**
 - Photohandsの取扱説明書(PDFファイル)をお読みください(PDFファイルは付属のCD-ROM内に収録されています)。
- **お店にプリントを注文するときに、日付プリントするよう依頼する**
 - プリントするお店によっては、日付をプリントできない場合がありますので、あらかじめご確認ください。

対応規格について

本製品は下記の規格に対応しています。

■ PictBridge

カメラ映像機器工業会(CIPA)制定の規格です。



■ PRINT Image Matching III

PRINT Image Matching III 対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。



PRINT Image Matching及びPRINT Image Matching III に関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

■ Exif Print

Exif Print(Exif2.2)は、対応プリンターをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。



Exif Print対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップ等については、各プリンターメーカーにお問い合わせください。